

年頭のあいさつ



下妻市長
稲葉 本治

新年あけましておめでとうございます
市民の皆さまには、清々しい新年を迎えられたことと心よりお喜び申し上げます。

また、昨年中は、市政各般にわたり多大なるご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、市制施行60周年を節目として、これまで先人の英知と努力で築かれた歴史や文化を再確認し、「安心・安全、そして健康で、活力ある下妻市づくり」に向け、子育て・教育環境の向上や定住人口の増加に向けたシテイセールスなどを推進し、将来を見据えた施策を積極的に展開いたしました。

特に、企業誘致に関しましては、既存の

工業団地がほぼ完売し、これまでインターネットでのタイヤ販売の大手「株式会社オートウェイ」、自動車や工作機械などの空気圧機器のトップメーカー「S M C株式会社」、食品系の物流を手掛ける「三共貨物自動車株式会社」、自動車のマフラーなどで高い技術とシェアを持つ「株式会社三五関東本社」がそれぞれ操業を開始しました。

さらに、本年4月には日野自動車関連でプレス部品製作・加工の「城山工業株式会社」、平成28年1月には耐震・免震製品製造のトップメーカー「岡部株式会社」が新たに操業予定されるなど、本市の新規財源確保をはじめ、雇用の確保など市内さまざまな分野における経済波及効果に大きな期待が寄せられております。

一方、人口減少・少子高齢社会の中にあつて、市民の皆さまが生き活きと元気に暮らしていくため、「健康＝健康で幸せ（身体面の健康だけでなく、人々が生きがいを感じ、安心安全で豊かな生活を送れること）」づくりは、喫緊の課題であり、新たな健康

増進施策に取り組みながら、「健康寿命」を延ばす各種施策を展開してまいります。

現在、砂沼周辺地区の都市再生整備計画、画事業を通して、街並みを再生させ、「見える砂沼」づくりに取り組んでおります。

砂沼を拠点に楽しんで歩ける「健康都市しもつま」づくりを着実に進め、併せて子どもを産み育てやすい環境づくりと、質の高い教育環境づくりをさらに推進し、若者が集うまちづくりを構築してまいります。

新年を迎え、昨年にも増して下妻市の魅力度を高め、何よりも市民の皆さまに「健康で明るく活き活きと輝く下妻市づくり」の具体的な成果を、スピード感を持ってお見せできるよう努めてまいります。気持ち新たに強く決意したところでございます。

結びに、市政運営に市民の皆さまのご理解とご協力をお願いし、皆さまにとりまして幸多き一年となりますようご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

新年インタビュー



仁川アジア大会の銀メダルと賞状を手にする黒須選手と稲葉市長（市役所本庁舎）

女子近代五種 黒須 成美選手 「自分に克つ」

平成26年10月に韓国で開催された仁川アジア大会で、女子近代五種の団体で銀メダル、個人で6位に入賞した下妻市黒駒出身の黒須成美選手が12月16日、稲葉市長を表敬訪問しました。

2012年ロンドン五輪に出場し、2016年リオデジャネイロ五輪の日本代表にも期待される黒須選手に、新年の抱負とふるさと下妻について語っていただきました。

■練習から自分に克つ

ロンドン五輪が終わってからの1年がすこく停滞していました。そこから、韓国人の李春基監督と契約をして、「一から始めよう」ということで、底上げの時期と考え、「基礎体力の強化」を目標に一年間トレーニングを続け、鍛え直しました。トレーニング時間が増え、泣いて練習したり、何度も嫌になったりしましたが、ずっと監督を信じて、「練習で自分に克てなかったら、試合の時に自分に克てない」と自分を追い込みました。どんなにつらくても、ランニングの練習では目の前に1位の選手がいるイメージでトレーニングをする。そういう意識でいると、最後の最後までゴールに少しでも早く着こうという意識で走れたので、「自分に克つ」ということが一番大事だと感じるようになりました。

そのような中で、自分の記録更新を目指す「自分の中での記録会」という意識で試合に臨み、一つ一つの大会で結果を出してきたので、それがアジア大会で団体のメダル、個人の入賞につながったと思っています。

■目標は大きく、常に持つ

ロンドン五輪をステップに、リオ五輪でトップ10に入りたいし、東京五輪をメインに考えているので、地元日本で輝くもの、メダルが欲しい。目標は大きく、常に持っています。ここ一年は、基礎練習しかしていなかったのに、結果が出てきていることから、自分にまだまだ伸び代があると感じることができた年でした。この自信を大切に、経験を積みながら、まずは5月下旬のリオ五輪の選考会を兼ねた「アジア選手権大会」でアジア5人枠に入り、五輪代表を決めなければならない。冬の時期にはウエイトトレーニングも行い、基礎体力をもっと上げられるよう、さらに追い込んでいきたいと思っています。

■下妻市にオリンピック選手が続くいい流れを

最近とくに、下妻の子どもたちが全国大会に出場するなど、下妻でスポーツが盛んになっていると感じています。柔道女子の塚田真希選手から2004年アテネ五輪、2008年北京五輪、私の2012年ロンドン五輪まで下妻市からオリンピック選手が続いているので、地元下妻の子どもたちの中から新たなオリンピック選手が誕生し、このいい流れが続くように願いながら、私も2020年東京五輪までは集中力を切らさないでトレーニングしていきたいと思っています。